



ビジネスの世界において英語が国際公用語となっている現況下、日本人が海外のお取引先や現地法人とやりとりするには、こういったコミュニケーション手段が適しているかを前回は考えてみました。

今回は、その中でも日本人があまり得意ではない、「聞く・話す」能力を活用してコミュニケーションを取るということについて考えてみたいと思います。

1 「読む・書く」と「聞く・話す」は違った能力です

日本では昔から「読み・書き・そろばん」とよく言われます。初等教育での基本的な教育内容です。

英語の世界においても、**reading, writing, arithmetic** と **R** の文字の入った3つの単語は「3R's」と言われ、日本語の「読み・書き・そろばん」に該当する表現があります。この3つの能力は、万国共通で教育し、習得することが求められていると言えるでしょう。

では、なぜこの中に、「聞く・話す」は加えられていないのでしょうか。

大きな理由は、2つあると思います。

1つ目は、「読み・書き・そろばん」は学習しなければ身に着かない能力なのに対して、「聞く・話す」は日常生活を通じて自然と身に着くものなので、入っていないのではないかと思います。

幼児は家族の会話から話し言葉を会得していきます。人はその育つ環境の中で自然と「聞く・話す」能力を身に着けていくので、「聞く・話す」は改めて教育するまでもなく、少なくとも母国語については自然と身に着いていく能力と考えられているのではないのでしょうか。

逆に言うと、英語が日常的に飛び交う環境で育っていない人が、英語の「聞く・話す」能力を社会人になってから身に着けるのは容易ではありません。

特に日本の大学入試では、話す能力を測る試験というのは一部の大学を除いて行っていないのが現状です。

この「読む・書く」「聞く・話す」は、音楽にたとえて考えてみればよく分かります。「読む＝楽譜を読む」「書く＝楽譜を書く」「聞く＝楽曲を聞く」「話す＝楽曲を歌う」と考えてみましょう。

「聞く・話す」能力のある人を音楽の世界で置き換えれば、「楽曲を聞き」「楽曲を歌える人」で、それはできるだけ多くの回数、お気に入りの楽曲を聞き、何度も口ずさんでいれば、自然と培われる能力だと思います。

譜面が読めなくても、楽曲を聞いて譜面に落とすことができなくても、カラオケで歌の上手い人は大勢います。逆にカラオケでとても歌の上手い人が、楽曲を聞いて楽譜に落したり、全く知らない曲の楽譜を見て正確に歌ったりする能力に秀でているか、というと必ずしもそうではありません。

つまり、英語の「聞く・話す」能力を磨くには、できるだけ若い時期に英語を母国語とする地域で英語漬けの

日々を送るのが最も手っ取り早い方法と言えるでしょう。

2つ目の理由は、「聞く・話す」能力が、昔はそれほど重要視されていなかったからです。しかし、現代社会は、「聞く・話す」能力の重要性が急速かつ大幅に上昇しています。なぜなら、航空機など移動手段の進化と移動コストの低下によって、移動時間が短縮され、簡単に海外に出張し、現地でお取引先と容易に面談ができるようになったためです。

また、通信技術の驚異的な進化によって、リアルタイムで世界中の拠点を繋ぎ、Webを通じて映像と音声を共有することが可能になりました。20世紀には想像もできなかったコミュニケーション環境の変化が我々のビジネスの世界にもたらされたことで「読む・書く」の能力の必要性が決して低下した訳ではないですが、「聞く・話す」能力の重要性が、急速かつ大幅に上昇しているのです。

2 「聞く・話す」能力をどうやって鍛えるか

社員やご子息を英語圏の学校に留学させる、というのは、24時間英語漬けにして、英語の「聞く・話す」能力を身に付けさせることになるため、非常に有効な手段だと思います。

しかし、それには時間もお金も掛かります。日常的に鍛錬できることとしては、英語圏のニュースを毎日聞くことを日課にすると良いでしょう。最近は英語の字幕が表示されるニュースアプリなどもあり、「聞く」能力を磨くには、もってこいの題材です。

もちろん、英語圏の映画やドラマもお勧めです。

また、「話す」能力を向上させる手段として、手軽な価格で自分の好きな時間に受講できる「オンライン英会話」の活用などもお勧めの方法の1つです。

3 「電話会議」や「Web 会議」のコツ

さて、このように日本語を母国語とし、英語漬けの毎日を送ってこなかった日本人が、ビジネス上、英語で会議をせざるを得ない状況になった時にはどうすれば良いのでしょうか。

まずは、相手の会話の癖を知っておくことです。日本語で会議をする時もそうですが、話の長い方なのか、訛りはあるのかといった情報は事前に頭に入れておくに越

したことはありません。

その上で、電話会議もしくはWeb 会議といった英語の「聞く・話す」能力が求められる会議に臨むコツとして、①会話の主導権を握る、②短い会話のキャッチボールを心掛ける、といった点が特に重要です。

「会話の主導権を握る」ということは、こちらが話を主導し、相手に質問に答えてもらう、という会話パターンに持ち込むということです。また、会議の前に論点を整理したメモや資料を手元に準備しておくことも重要です。そうすることで限られた会議の時間も有効に使えます。

これが、先方に会話の主導権を握られると、話好きの人の話に延々と付き合わされ、その結果、時間を費やした割には、先方の発言の意図がよく分からなかった、ということが生じ得ます。

短い会話のキャッチボールに持ち込むというのは、他にもメリットがあります。

Web 会議や電話会議で一方的に話をする、相手が話の内容にどこまでついてきているのかがよく分かりません。どこまでは理解してくれていたのか、どこから分からなくなったのか、そのポイントをできるだけ効率的に見つけるという意味でも、短い会話のキャッチボールは有効です。

特にWeb 会議は、電話会議と違って相手の様子が見えるという利点があります。

自分のプレゼンテーションに相手が頷いてくれたかどうかを観察しながら、ジェスチャーも交えて説明を行いましょう。

また、プレゼンテーションを行う際には、できるだけ短いインターバルで "Any questions so far?" とか "Are you with me?" といった質問を交えつつ、プレゼンテーションや会議を進めていくのが良いでしょう。

如何でしょうか？ 英語を「聞く・話す」能力の鍛え方を把握し、「聞く・話す」コミュニケーションのちょっとしたコツを知るだけで、皆様のビジネス英会話は格段に進歩すると思います。次回は、具体的な事例で、会話のコツを解説していきます。